

平成 27 年度教育センターだより

かしの木

臨時増刊号
川越市立教育センター
TEL 049-235-7591
FAX 049-230-1023
e-mail kyoikucenter@city.kawagoe.saitama.jp

「はつらつ先生」に学ぶ授業力向上研修会 報告

今年度の新規事業、「はつらつ先生」に学ぶ授業力向上研修会が、6月26日（金）に南古谷小学校で行われました。「はつらつ先生」として、示範授業および指導をしてくださったのは第6学年3組担任の中島晶子教諭。参加した研修生からは、「学級経営がとても充実していた。」「単元を貫く言語活動を計画的に行いたい。」「もっと多くの先生が参加して欲しい。」といった感想があり、大変に充実した研修会となりました。



背面黑板の様子です。既習の学習内容や本単元の流れ、関連する本の展示など、見通しをもちながら、学習内容を深めることのできるコーナーです。本時の学習でもこのコーナーが活用されていました。充実した授業にしていくためには、学習環境も整えることが大切であることを再認識することができました。

導入の工夫

示範授業は第6学年の国語科でした。「本のショーウインドウ」をつくるために、「森へ」の作品のよさを考えていく、単元を貫く言語活動を位置付けた学習です。導入段階では「よさ」をどう捉えるのか考えさせました。この「よさ」についてじっくりと考え、明確にしたことが、本時のめあてにつながっていきます。

充実した話し合い

印象に残ったところ、心に残った表現を個々で抜き出し、付箋紙に書いていきます。年度当初から書くことへの指導を徹底しており、子ども達は躊躇なく自分の思いを書き綴っていきます。その後、グループで個々の意見を交流して、話し合った結果を発表していきます。子ども達の話合いの進め方や発表の仕方などは、とても慣れた様子で、日々の学習の積み重ねを感じました。

まとめの工夫

最後に、グループや全体で話し合っ得たことをもとにしながら本時のめあてである、「本のショーウインドウ」に おすすめの言葉の部分を書きました。中島先生は、書き終わった子には声に出させて読ませていきます。授業中にできるだけ声を出させるようにするとともに、他の子へのヒントにしているそうです。1単位時間の中で、子ども達の力を伸ばすための工夫が随所に見られた素晴らしい授業でした。

第6学年3組 国語科学習指導案

平成27年6月26日（金）第5校時
活動場所 6年3組教室
児童数 35名（男子18名、女子17名）
指導者 中島晶子

4 本時の学習指導（本時 4/6時）
(1) 目標
優れた表現や印象に残った部分に着目し、感想や考えを明確にしなが「森へ」を読むことができる。
(2) 評価規準
心に残ったところや優れた表現など、自分の考えを明確にしなが「森へ」を読んでいる。（読むこと オ）
(3) 展開

| 学習活動 | 指導上の留意点（○指導◆評価△手立て） |
|------------------------------------|---|
| 1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 | ○本を紹介する「本のショーウインドウ」のパーツ構成を確認し、本時の課題と学習の流れを確認させる。 |
| 2 「森へ」を読む。 ・「森へ」の特徴について話し合う。 | ○「森へ」という物語の特徴について考えさせる。 ・ノンフィクションである。 ・写真が多く用いられている。美しい。 ・自然や生き物について取り上げられている。 ・特徴のある文章表現がされている。擬音語など。 △音読を繰り返す。文章を味わわせておく。 「カレライス」を想起し、比較させて考えさせる。 |
| 3 「本のショーウインドウ」のおすすすめ言葉の部分を書き、交流する。 | ○「森へ」を読んで印象に残ったところ、心に残った表現を抜き出させ、作者が伝えたいメッセージについて話し合う。 個人グループ全体 ○「森へ」を読んで印象に残ったところ、心に残った表現を抜き出させ、作者が伝えたいメッセージについて話し合う。 個人グループ全体 ○新語の特徴（良さ）や印象に残ったところや表現などを入れておすすすめ言葉をショーウインドウに書かせる。 ◆心に残ったところや優れた表現など、自分の考えを明確にしなが「森へ」を読んでいる。（ワークシート・発言） |
| 4 学習の振り返りをする。 | ○本時の学習をまとめ、次の時間にこの学習を生かして「いちばん心に残っている本」のショーウインドウを作ることを確認する。 |

時間 学習活動 指導上の留意点 評価規準と評価方法

第1次 1. 学習課題を設定し計画を立てる。
2. これまでにあった本について振り返る。
3. 自分と本の関わりについて考え、伝え合う。

第2次 1. 「森へ」を読んで作品の良さについて話し合うとともに「いちばん心に残っている本」の紹介の仕方本本のショーウインドウ作りを通して学ぶ。

第3次 1. 「いちばん心に残っている本」について、「本のショーウインドウ」にまとめる。
2. 作成した「本のショーウインドウ」を使ってグループで本と本の関わりについて伝え合う。

指導上の留意点
・「本のショーウインドウ」を紹介し、単元全体の見通しをもたせる。
・本を持参させ、選んだ理由をメモさせる。
・「本のショーウインドウ」を作りながらあらすじのまとめ方や印象に残った部分の紹介方法などを学ばせる。
・第2次に学習した構成の仕方を生かしてショーウインドウ作りをさせる。
・同じ本やジャンルの偏りがないようにグループを構成する。

評価規準と評価方法
(関) これまでの読書体験を振り返り、本の付き合い方について考えようとしている。（ノート・発表）
(読) 互いの読書体験を発表し合い、友達と自分の考えを比べながら聞いている。（様子）
(読) 心に残ったところや優れた表現など、自分の考えを明確にしなが読むことができる。（作品・発表）
(言) 自分の紹介する本について、聞き手に興味を持ってもらうため、心に残った場面や優れた表現についてウインドウを書く。（作品）
(書) 本に対する自分の思いを明確にし、効果を考えなが言葉を選んでいる。（作品）

授業後の協議にも、中島先生に参加していただきました。研修生は積極的に質問をしながら、授業力向上のための工夫を話し合いました。上の指導案は協議の時に中島先生からいただいたものです。「指導すること」（赤字）、「指導のための手立て」（青字）が書き込んであります。指導案に記載されないような細かい内容やキーワードが書かれています。十分な教材研究を通して、意図的・計画的に指導していくことの大切さを実感しました。

多くの学びがある「はつらつ先生」に学ぶ授業力向上研修会、来年度はさらに多くの先生に参加していただけたらと思います。



『教育フェスタ KAWAGOE』追加情報

『川越国語同好会』の参加も含め、全部で23グループ（個人発表含む）の発表が行われます。7月9日（木）現在、351名の先生方に参加申込をいただいておりますが、今後も追加申込等を受け付けます。詳しくは、7月7日（火）に配信しました、「二次案内」及び「部屋割」を参考願います。なお、近日中に最終案内を各校、参加人数に応じて送付します。

「教育フェスタ KAWAGOE」のテーマは Interactive（双方向）です。参加の先生方には、積極的な発言を期待します。皆で高め合う「教育フェスタ KAWAGOE」を創造していきましょう。